

令和5年10月31日

11月号

緑小だより

横浜市立緑小学校



ふれあい 学びあい みとめあう みどりっ子

Mail : y3midori@edu.city.yokohama.jp URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/midori>

見方を変えれば

校長 寺澤 みゆき

明日から11月。早いもので、令和5年も残すところ2ヶ月となりました。気候の安定に伴い、学習も順調に進んでいます。特に、10月に計画していた校外学習・遠足は、天候にも恵まれすべて予定していた日程で実施することができました。保護者の皆様には、弁当等の持ち物のご準備やお子さんの健康管理など、ご協力いただきありがとうございました。

先月の学校だよりでは、学習に「体験」が伴うと、学習効果が高まるということをお話しさせていただきました。そのことは、私も今までの経験で実感していたことですが、今回、修学旅行を引率し、体験により子どもたちの精神的な成長も育まれるものだ、ということに改めて気づかされました。

10月20日（金）・21日（土）の2日間、6年生と共に日光修学旅行に行ってきました。心配された雨の影響もほとんどなく、報道されていた通り、奥日光の紅葉も素晴らしいものでした。

ただ、思ってもみなかったことが出発直後から起こりました。高速道路の事故渋滞です。1時間半も行程が遅れたため、予定していたサービスエリアでの休憩はおろか、現地での昼食すら難しい状況になってしまいました。引率職員と添乗員で話し合い、今後の行程をできるだけ計画通りに進めるために、昼食をパーキングエリアでとることにしました。

「本来なら、戦場ヶ原で雄大な風景を見ながらの予定だったのに…。子どもたちはがっかりするだろうな。」とっていました。しかし、予想と違い、子どもたちから出た言葉は、「やった。もう食べられる。」でした。戦場ヶ原でのハイキングでは、中ほどまで来たところで雨が降り出しました。レインコートを着用するようにとの指示が出て、各々リュックから取り出しながら口々に言っていたことは、「持ってきてよかったね。」「ちゃんと用意してきてよかった！」という肯定的な言葉でした。5分も経たないうちに雨が上がり、すぐ脱ぐことになった時も、「止んでよかった！」「ラッキー！」と、否定的な言葉が出てしまいそうな出来事が続いたのにもかかわらず、「なんて気持ちの良い考え方ができる子どもたちなんだろう！」と、明るい気持ちになりました。

皆さんは、「コップの半分の水」の話をご存知ですか。コップに残された半分の水を見て、「もう半分しかない」と思うか、「まだ半分もある」と思うかで、状況への捉え方が全く異なるというものです。これを心理学用語では、リフレーミングといいます。「物事の視点・枠組み (Frame)」を「組み直す (Re-Frame)」ことで、出来事に対して新しい視点を与え、発想の転換を促すものです。緑小学校の6年生は、このリフレーミングをする力がついていたのです。現実をしっかり受け止め前向きに行動する力は、まさに「生きる力」です。緑小学校として体験を伴う学習活動を大切に、今後も子どもたちの資質能力を育んでいきたいと思っております。

11月も本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。